

火谷碑

「もうこびの春、旅立ちの季節。本日は私
たちのために、このような卒業式を執り行って、
いただいたこと、卒業生一同心より御礼申し上
げます。今日の日曜日、私たちは伊勢まなび
高校を卒業します。」

入学した当初、右も左もわからない中なんと
か手探りで歩みを進めてきました。困ったと
き、悩んだとき、嬉しいことがあったとき、こころにはい
つも、話し相手になってくれる先生たちがいまし
た。良くも悪くも自由な先生が多く、先生たち
の雰囲気がまなびの悠々自適な空気感を
作り出していたように思います。一人一人に寄り
添って、受け入れてくれる先生方の支えがある
からこゆ、どんな色を持った生徒でもこころに
いることができます。これまで私たちを見守っ
てくださった先生方、本当にありがとうございます。
ありがとうございました。

三年間、四年間、五年間、六年間。今日こ
に在る卒業生は、ゆれぞい異なる月日の流
れを伊勢まなび高校で過してきました。

私は三年で卒業する予定が、いつのまにか六年
が経ってしまいました。家族には幾度となく心配や
迷惑をかけたと思います。本当にごめんなさい。

最後の一年は自分で車通学ができるようにな
って、母に送迎してもらうことも無くなった。車
の中でよく聴いた東海ラジオのロタクマ・神
野のどーやーふーん、面白かったよなあ、あれ。

去年の九月で終了したんやうて、あんまりラジ
オ聴かんようにな、だから知らんかった。行きと帰
りの三十分ずつをもと、大車に思えばよか、たな
と今は思う。六年間、やー二十一年間、支え

てくれてありがとう。

私にとってまなびは、友達という存在がもた
らす影響に気づいた場所です。小中学校で
は人との付き合いがあまり上手くいかず、高校に
入学してまじばらくは煙、ってばかりの毎日。そ
んな私も、五歳年上の姉が一年下の後輩として
入学してきたことをきっかけに、人間関係の輪を広
げる楽しさを知ることになった。同じクラスには
自分の親とやう変りらない年齢の生徒がいて、
人生で初めて薫下の生徒と一緒に授業を受
けて、老若男女問わず境遇も違う者同士
が、横並びになって同じ高校生でいられた。こころ
に在るみんなは、私が学校に行く理由やうのも
のでした。勉強することも、と座、っていること
も苦手だ、たけど、みんなに会えるから、いつ
も明日が楽しみでした。今までありがとう、
どうかお元気で。

体育祭や文化祭は全日制の高校のように
盛大にはりかず、他のクラスの生徒と関わる機
会も多くはなかつたですが、ゆの分一日一日を
大切に過ごすことができました。特に令和元
年度以降は、休校になったりオンライン授業に
切り替わったりと積まれないことも多かった。やる
せない悲しさと行き場の無い悔しさに負けじど
と、ゆの時々でできる限りの青春を自らの
手で取り戻してきました。在校生のみならず、
まにおかれましては、限られた時間を災いに
見舞われることなく送れるよう、心から願
っています。

ああ、や、ぼり卒業したくない。ゆがゆが
連絡を取り合いながらも友達に会えて、な

くだかんたあ、てちや、ぱり楽しくて、やれに
学割がきく。なんてぬ。陽の光のまかに光を
もとの、夜の語りのなかで語りをつかめた高校生
活でいた。この場所で手に入れた記憶や学びを
胸の中につめこんで、時には思い返して、この世から
人々の糧にして生きていきます。

最後になりましたが、この日まで私たちに
関わってくださったすべての皆様、本当にあ
りがとうございりました。皆様の御多幸
と伊勢まなび高校の発展をお祈りいた
します。ご挨拶とさせていただきます。

令和五年 三月 六日

卒業生代表 丹川 凜